



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって事前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

「谷川の流れを慕う 鹿の
ように 主よ 我が魂 あな
たを慕う あなたこそ 我が
盾 あなたこそ我が力 あ
なたこそ 我が望み 我は
主を仰ぐ」(リビングプレイ
ズ69番)。

この有名な「鹿のように」
と題された曲は、今月の聖
句である詩編42編が、その
モチーフとなっている。

とここで、この詩編の冒
頭の句の興味深さは、その
訳し方にある。「涸れた谷
に 鹿が水を求めるように」

(新共同訳)、「鹿が涸れた谷
で水をあえぎ求めるよう
に」(協会訳)、「鹿が乾い
た河床に向かってあえぐよ
うに」(関根正雄訳)と訳
すのに対し、「鹿が谷川の流
れを慕いあえぐように」(新
改訳2017)、「神よ、し
かが谷川を慕いあえぐよう
に」(口語訳)、「鹿が谷川の
水を慕いあえぐように」(フ
ランシスコ会訳)と、鹿が

慕いあえぐのは、「涸れた谷
川の水」なのか、それとも
ただ単に「谷川の水」だけ
なのか、翻訳する聖書によっ
て、それは見事に二分され
ている。

もちろん、そんなことは

大して重要ではないと、言
う向きもある。しかし、私
には、涸れ果てた川に、
すなわち水などどこを探し
ても見つかるはずのないと
ころになお、水を求めよう
とするものの姿と、かつて
は溢れんばかりに水を湛え
た川を遠く思い起こすもの
の姿とでは、そのイメージ
が変わってくるように思え
るのだ。

瞑想

神に、生ける神に私の魂は渴く。

詩42:3

主幹牧師 榎本 恵

確かに、この詩の中に現
れる地名、「ヨルダンの地
ヘルモンとミザルの山」
(7)とは、それぞれパレス
チナ北部の地域を指し、こ
の詩は、何らかの理由で、
エルサレムの神殿を追放さ
れた祭司が、「神の前から
遠ざけられ、神から見捨て
られたと嘆いている」(フラ
ンシスコ訳註)姿をうたっ
たものであると解釈されて

の水を飲む者は誰でもまた
渇く。しかし、わたしが与
える水を飲む者は決して渇
かない」(ヨハネ4:13)と。
彼女はそれに対して、「主
よ、渇くことがないように、
また、ここにくみに来なく
てもいいように、その水を
ください」(15)と言うのだ。

なぜなら、彼女は、朝早く
他の人々と一緒に水を汲み
に行けない事情を抱えてい

いる。しかし、それは、た
だ都落ちした嘆きだけでは
なく、「東風(こち)吹かば
匂ひおこせよ梅の花主なし
とて春を忘るな」(太宰府
に左遷された菅原道真の詠
んだ歌)にも通底する、嘆
きの中にあつてなお諦めぬ
強い思いを感じさせるのだ。
主イエスはかつてヤコブ
の井戸の前でサムリアの女
と出会い、こう言われた。「こ

たからだ。

主は、彼女の心を渇かせ
ていたそのことを言い当て、
そして「この山でもなく、
エルサレムでもない所で、
父を礼拝する時が来る」
(21)と言われた。

聖なる神殿は遠いどこか
他所にあるのではなく、霊
と真実を持って礼拝する
時、その心のうちに湧き上
がる「永遠の命に至る水」
(14)として湧き上がって
くる。あれほど人と会うこと
を避けてきた彼女は、それ
を聞いた時喜びに溢れ、そ
の大事な水を入れるかめを
置き、駆け出して町中の人
に証した。

「神よ、生ける神に私の
魂は渇く」(3)。神に渇く
者。それは、まさに涸れた
川の前に、水を求め渇く鹿
のような私たち自身の姿
だ。

しかし、友よ、その時、
主の言葉が響いてくる。「渇
いている人はだれでも、わ
たしのところへ来て飲みな
さい。わたしを信じる者は、
その人の内から生きた水が
川となって流れ出るように
なる」(ヨハネ7:37-38)

シメオンの風に吹かれて ラビリンスへの旅

市橋 恵子

出る。

月に2度シメオン修道場を訪れて清掃をするようになってから1年が過ぎた。

部屋の窓を開けると心地よい風が頬をなでる。庭先に出ると木々の木漏れ日を抜けた風に吹かれる。その風の心地よさについ、好きな讃美歌が口について



礼拝後、ヴォーリス建築見学コースの皆様。恵子姉は後列中央。ダブルハウスにて。

長引くコロナ禍で、教会は対面集会を再三閉じなければならなかった。気が付けばオンラインでの礼拝配信にすっかり慣れてしまった。讃美歌も声を出して歌えなかった。もっと人間らしく、もっとお互いに触れあいたい。礼拝を捧げたいと心底願うようになった時、シメオンの木立の中で神様が「ここにみんなを集めなさい」と言っておられるような気がした。

「そうだ、葵教会のみんなでシメオンへ行こう、野外礼拝を捧げよう」と思い立った。祈りながら企画書を書いた。教会

の伝道委員会でプレゼンし、そしてそれは役員会へ提出された。当初、口の悪い信仰の友たちからは「いちいち（私のあだ名）の野望」とか「無謀な計画」とか言われたが、それは神様によって整えられた。

当日は、集合予定時間前に教会にみんなの姿があり、チャーターしたバスに乗り込んだ。参加者の年齢は5歳から97歳まで。なんと10代をのぞく90代までのすべての年代が集まったのである。

礼拝の準備からアクティビティまでアシュラムセンターの皆様が献身的なサポートを受けて、奇跡のような恵まれた一日を過ごした。主に感謝。

(京都葵教会)
(シメオン黙想の家)
清掃奉仕者／衛生指導
(早天祈祷会の友)

洗足式

鍛田 速明

メノナイトの教会では毎年、受難節の聖木曜日の祈祷会で、「あなたも互いに足を洗い合わなければならぬ。のみことばに従い、教会員同志が足を洗い合う。いわゆる「洗足式」を執り行っています。

残念なことにこの3年間、コロナ禍のために「洗足式」を中止せ

ざるを得ませんでした。

4月14日（この日は聖木曜日）常任運営委員会の席上で突然主幹牧師が「今から洗足式を行います」と宣言され、代表として小生の足が主幹牧師の手で洗っていただくことになりました。



洗足式の祈りの時 photo 和田モッド姉

「もったいない、主幹牧師が小生の足を洗ってしまいました」と思っていました。が、洗足中にイエス様がペテロの足を洗う状況を思い出し、「今、このいやしい小生の足をイエス様が洗っておられる」と錯覚に落ち入りました。

小生の心の中から湧き出てくるドロドロとした罪（原罪）および外

から闖入する悪霊が綺麗さっぱり洗い流され、涙がとめどもなく出てきました。何週間経った今でも、あの時の「洗足式」の光景が夢の中に現

れ、感激しています。来年こそコロナ禍も収まり、全員が「洗足式」に与れることを祈ります。
〔常任運営委員長／メノナイト プレザレン星田チャベル〕

「ゆりの根」

証 猪瀬 和子

(神戸聖愛教会 広野祈りの家にて)

1ヶ月以上前に、私は医者から胃がんの末期でもうなすすべもないと告げられました。

その瞬間に「あー素晴らしい楽しい幸いな人生であった！」この思いが心の中に火がついたように灯ったのです。一切動揺もなく、とても平安で落ち着いて医者の方の言葉を受け止められました。

ちょうどアシシラム誌5月号の恵師の黙想に「あなたの魂が幸いを得ているようにあなたがすべての点で幸を得、また健康であるように祈ります。」(Ⅱヨハネ2章)とあり、このみ言葉は私に与えられたのだと思

いました。

「命の幸いである健康に霊的な健康もあり、それは主によってこそ与えられる。」(瞑想後半)

その通りに私はなっているんです。自分の現実を悲しむことも不安も一切なく毎日を過ごさせて頂いています。このような小さな者を見えないものが見えるように導いて頂いたことに感謝しております。

今年の教会総会資料に「毎月、阪神ミニアシシラム集会のため一室をお貸しすることが決まりました。」とあり、アシシラムが教会に

も認められたことを喜んでます。小さい者の祈りを聴く方は大きな方です。人にはできないことも神にはできる。その神様が祈りの相手ですから：必ず叶えて下さると信じて祈り続けて参りましたら、思いに勝る祝福が与えられ感謝です。

今まで長いことお世話になりました。

共に喜び合えて、皆様の信仰の暖かさに囲まれて「幸いな人生でしたね」と神様から刻印をいただきました。ゆりの根がいつぱい重なって一つの花が咲くことを思いました。

長いことありがとうございます。必要を満たして下さる神さまを信じて、アシシラムのことも教会のこともお祈りしています。すべて神さまの御手のままに。

アシシラムの皆さまへ
長い間ありがとうございます。私の証を、皆様にお届けできることが今、何よりの喜びです。

〔榎本恵師のコメント〕

私たちは驚くべきことを見たんです。今、ここで、主に委ねていく人の姿を見せて頂いている。信仰とは手渡しのものだと思ふ。たとえ、どこに行つたとしても祈り合う心は決して壊れるものではない。

今日、これだけの方達がここに集まって祈り合う。一房一房、合わさって猪瀬さんの家で立派なゆりの花を咲かせて頂いています。



猪瀬姉の突然のお証を聴き、涙。しかしそれは感謝の涙へ。賛美の時に。



るつこ姉和子母も駆けつけ、祈り、励まし合う。



久しぶりに孫のゆきこ姉来訪。和子母の愛猫トラの里親！



6月の加古川祈りの家(小林清子姉宅)長いアシシラムの友も、初めてご参加の方も、主によって集められ…



京都葵教会の野外礼拝。シメオン黙想の家の庭にて初。他の教会にも繋がりますように。

2022年度 アシュラムの天上の友を憶える日礼拝



〈誕生日カード感謝のお便りから〉
皆様からの寄せ書きの言葉に励ましを頂いて歩まされております。大変な日々が続いている世界の状況ではありますが、

イエスは主なり

今年もこの季節がやって参りました。昨年7月から今年6月の一年の間に、天へと帰っていかれたアシュラムの友を覚える日の礼拝です。こうして、お一人お一人のお名前を読み上げる時、「ああ、あの方も、この方も」と思わずにはおれません。

「最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます」(Iコリント15:52)

パウロは、死者の復活の時をこう表現しました。死は死のままでは決して終わらない。天使たちの吹き鳴らすラッパの音色と共に、一瞬のうちに変えられる、その時がある。私たちは、このラッパの響く時を信じ、その音色を待ち望む者です。死は決して永遠の別れではないのです。

今年2022年は、特に私たちアシュラムセンターの創設者榎本保郎牧師の召天45年の時でもあります。センター設立後、わずか2年で天へと駆け上がったいった師の念願であった、「シメオン黙想の家」で、今回の「天上の友を憶える日礼拝」を行います。

神は、必ず地上で結ぶことを天でも結ばれる方です。こうして45年の時を経て実現した祈りの場所での記念礼拝、是非お越しください。共に天へと帰っていったアシュラムの友を思い起こしながら、同時に私たちもまた、その名を天に記されている者として、祈りを合わせて参りましょう。

皆様のご参加を、こころよりお待ちしております。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵

2022年 天上の友を憶える日礼拝

日時：2022年7月30日(土) am11:00より
(礼拝後、共に軽食をいただきます)



場所：シメオン祈りの家(旧ヴォーリズ建築佐藤久勝邸)

野外礼拝となります。暑い時期でもありますので、平服でお越しください。

(☆天上の友のスナップ写真、お送りくださると幸いです)

故人氏名 (敬称略)	召天日	召天時 在住地
西川 正子	2019. 8. 29	京都
秦 喜久江	2019. 9	三重
林 茂子	-	徳島
仲田美智子	-	島根
斎藤 学	2021. 1. 19	神奈川
黒江 務	2021. 1	北海道
白石 茂	-	-
大鉢 忍	2021. 4. 17	京都
黒見 妙子	2021. 7. 22	東京
池谷 治朗	2021. 9. 27	静岡
渡辺美寿子	2021. 10. 25	愛知
後藤 恒子	2021. 10	京都
吉井三代子	2021. 11	鹿児島
藤本キク江	2021. 11. 22	愛知
藤本 岩夫	2022. 1. 5	愛知
谷 昌二	2022. 2. 9	奈良
小川 久恵	2022. 2. 11	静岡
植草 栄一	2022. 2. 19	千葉
野村 道子	2022. 3. 23	淡路島
小林 佳子	2022. 3. 26	茨城
藁科 茂	2022. 3. 28	静岡
加藤堅太郎	2022. 5. 13	大阪
吉川 勇三	2022. 5. 8	盛岡
吉仲 将	2022. 4. 17	-
矢野 敏博	-	-
古川 富也	-	大阪
河口百合子	2022. 6. 9	愛媛

谷昌二司教ご召天のお知らせが、利子夫人より届きました。沖縄聖書教室の会場に教会をお貸し下さり、また、世界の平和を願ひ続け、国際正義・平和アシュラムにてご奉仕くださいました。
「神様や信仰の友との交わりが、最期まで夫に力を与えていたのだと感じております…夫と共に歩んできた道が神様に見守られ祝福されていたことを改めて感謝しております。」(谷利子 日本聖公会奈良基督教会)



◀国際正義・平和アシュラム台湾(10数年前)前列右に谷司教。利子夫人は、全列左から四人目。皆様お若い!今は、天上から、平和を祈り続けておられる方々も。

あとがき

今年度も、早半分が過ぎた。ウクライナの戦争、コロナの感染など、未曾有の状況下の中で、アシュラムセンターも、今、試練の時を迎えている。

9月より、ヤマト急便の配送費が、2倍になると言う通告があった。日本中が、物価の高騰をきたす中で、それとは関係ないものはないだろう。皆、共に苦しんでいる。全国、海外も含め、1000カ所余りの個人、教会宛に毎月アシュラム誌を送らせていただいている。お読みになったくださる方々からのお手紙や励ましは大変心強い。と同時に、これを送り続ける金銭的負担は大きいことにもため息が出てしまう。

主よと祈りつつ、しかし現実の対処を行わざるを得ないことに心が痛む。ついでに、来月8月号に、このアシュラム誌の継続についてのアンケートを同封する予定となっている。私たちは、なるべく多くの方々に読んでいただけたらと願っている。その希望を抱きながら、なお、この誌が有効に使われていくこと、そして働きの継続できることを祈っている。どうか、皆様、覚えてお祈り、お支えをお願いします。(恵)



四国一日アシュラムの案内見ながら。「毎日、ファミリィの方のお祈りの時が楽しみなの！自分も祈ってもらえてると思うと嬉しくて！」と、幼な子のような笑顔で。

佐賀 昭子姉 甲西伝道所にて

瞬きの詩人

水野源三の世界 46

三浦綾子記念文学館特別研究員
森下 辰衛

兜虫 1972.8.20 (no.8)

朝顔が咲く
涼しい風が吹く
庭のかたすみに
母と姪が
死んだ兜虫の
お墓を作り
つんで来た
花を供える

神様
兜虫を
天国に
入れて下さい。



梶原道子師画 イソツツジ (網走教会)

この詩は、どの詩集にも掲載されていない作品です。源三さんの故郷、長野県坂城町の坂城栄光教会に所蔵されている「元帳8番」のノートに記載されています。この詩が書かれたのは、姪の弘子さんが幼稚園年長のころで、お母さんのうめじさんの健康が保たれていた最後の時期でもありました。源三さんが庭に見たやさしい光景と、それへの思いを語っているようです。

中世ヨーロッパでは、人間は神によって作られた存在だけれど、昆虫は悪魔が作ったものとも言われていました。当時の農業にとって虫による被害がいかに死活問題として大変だったかが推測されることでもあります。当時の多くの学者たちはアリストテレス学派の生物観に立って、虫は腐った泥から自然発生する生き物であり「悪魔の生物」だと考えていました。

その中で、マリア・ジビーラ・メーリアン(1647年-1717年)というドイツ生まれの女性画家は、自然科学者の眼ざしで、植物や昆虫、とくに蝶や蛾の変態の様などを正確緻密に描写したイラストを残しました。彼女は、現在では高く評価されていますが、当時は異端視され魔女の嫌疑がかけられそうな状況だったそうです。

ここに登場する母と姪も、中世ヨーロッパだったら、魔女にさえされかけたかも知れません。もしかしたら現在のキリスト教会でも、偶像崇拜に近いものと見なされて注意される可能性もあります。二人と一緒に心で花を供え、兜虫に天国をと祈る源三さんも「神学的に問題のある人物」かも知れません。

でも、ここには、いのちとして生れて生きて死んでゆくいのちと、そのいのちに出会ってつくしみ、その死にあって悲しみ、葬りをするいのちたちがいます。あるいは、朝顔と涼しい風も、彼らと一緒に兜虫の葬りをしているのかも知れません。そして、それを背後から見つめて祈るいのちもあります。他の被造物をこんなにもいつくしむ、単純で素朴な人間の自然な心、その心を尊び受けとめる源三さんの祈り「神様 兜虫を天国に入れて下さい」。それは他の被造物を神様の手と心に繋ぐことではないでしょうか。

この優しい光景を心にとめるとき、ああ、そうなのだ、人間はこうでなければいけない、と21世紀の我々は思われるでしょう。勝手気ままに他の被造物を殺して、自分勝手な目的を遂げようとする人類は、本来の使命を忘れています。神様に任されて人間が他の被造物を「支配する」とは、本来この水野家の三人のような心と手と目でなければならないのではないかと。

戦前は熱心なホーリネスのクリスチャンだった詩人まどみちおは、後には、被造物を無視したキリスト教の人間中心主義に意識的に反抗しました。彼の「毛虫」という詩は、花についていた毛虫を払い落して踏みつぶした時に、聞こえる声があったという作品です。「ふと気がつく／髪毛のように細い一本の手が／さかんにぼくの頭をこづいているのだ／何億年の昔のほうからのびてきていて／—ただ今 おひきとりになったお方は／どなた様でしたでしょうか…」詩人の感性はそれぞれに時代の神学の少し先の真理を語る預言者なのかも知れません。

【水野源三と八木重吉 三浦綾子が愛した詩人たちを読む読書会】8月より始まります。
お問合せ/お申込み shiokaripass@gmail.com (森下アシュラムセンターHPに案内掲載)

神様からのちを与えられて、この世界で生かされている一人一人として、地球にやさしい歩み方をしていかなければと思わされています。

武俊彦師(京都西大路教会)

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり!

7月の聖書教室など		【主な問い合わせ先】 0748-33-4030 アシュラムセンター
1(金)	阪神ミニアシュラム(神戸聖愛教会 PM1:00)	
5(火)	Zoom聖書教室(AM10:30、PM7:30)	
9(土)	聖書と学ぶ会(Zoom PM8:00)	
11(月)	箴言に学ぶ会(Zoom AM10:30、PM7:30)	
17(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝(PM5:00)	
19(火)	大阪聖書教室(大阪クリスチャンセンター AM10:30)	
20(水)	カフェちいろば聖書入門講座(京都・伏見区深草 PM1:30)	
22(金)	センター聖書教室(アシュラムセンター AM11:00)	
25(月)	静岡聖書教室(旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)	
26(火)	東京聖書教室(御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)	
26(火)	しみじみの会(桜美林大学 PM2:30)	
27(水)	美しい足の会(Zoom AM10:30、PM7:30)	

7月のアシュラムなど		
9(土)	第3回 四国一日アシュラム (日本基督教団 三島真光教会) 奉仕者 櫻本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
18 (月・祝)	第25回 福岡一日アシュラム (日本基督教団 福岡中部教会) 奉仕者 櫻本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
21(木) ~ 23(土)	2022年 修道場アシュラム⑥ (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 櫻本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
30(土)	天上の友を憶える日礼拝 (櫻本保郎師 召天45周年記念式) 奉仕者 櫻本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

8月のアシュラム予定		
11(木) 13(土)	関西青年アシュラム 奉仕者 溝口 勝幸師	0722-50-5224 小林牧人兄
25(木) 27(土)	常任運営委員のための修道場アシュラム 奉仕者 櫻本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

9月以降のアシュラム予定	
10月17(月)~18(火)	新潟アシュラム
10月20(木)~22(土)	加太アシュラム
10月27(木)~28(金)	第10回 日光オリーブの里アシュラム
11月2(火)~4(金)	第47回 京浜アシュラム



←5月修道場アシュラム。左から浅田姉・加藤兄。モツ姉のタイ料理。

みことば

ノースカロライナ大学院生
Zoom聖書と学ぶ会
櫻本 空

渴いている人は誰でも、
私のもとに来て飲みなさい
ヨハネ7章37節

沖縄の伊江島に越してきた。カビの匂いのする、子どもの頃に住んだ家は空っぽで、私は何もない畳の上に一人、寝っ転がる。

もっとも「空っぽ」というのは正確ではなく、この家にはすでに先住者がいた。ヤモリたちだ。私はいわば居候で、ヤモリの家に束の間、お邪魔する間借り者。真っ暗な天井に賑やかに響く、ヤモリのどこか懐かしい声を聞きながら、そんなことを思った。きっとこの奇妙な侵入者について、あれこれ議論しているに違いない。しばらく騒がしくするけど、許しておくれ。子どもたちをよろしく頼む。

朝起きて、私の仕事は家を掃除すること。ホコリの積もった床を雑巾で拭いていると、たちまち汗が噴き出る。空気がねっとりとして身体にへばりついて、もうたまらない。休憩だ。急いで私は、近くの自販機にジュースを買いに行く。喉が渴いた。真っ黒な液体をとにかく喉に流し込んで、生き返ったような気持ちになる。

そこでふと、「私は渴く」と言って十字架につけられていったイエスのことがよぎった。今の私とイエスとの間の距離といったら、それはもう途方もなく遠い。でも、と私は思う。きっとイエスにも、またその弟子たちにも、刺すようなガリラヤの太陽の下、一心不乱に飲み物を求めたことがあったに違いないと。そう思って私は少し、救われた。(次号につづく)



←2歳児もラビリンスウォーク。